

静岡県の民謡再発掘とその発展的創造、現代的奏演に向けての 調査研究報告

A report on research for refinding and recreating folk songs, and their contemporized performances in Shizuoka Prefecture

大 槻 寛・柳 沢 信 芳・小 西 潤 子

Hiroshi OTSUKI, Nobuyoshi YANAGISAWA and Junko KONISHI

（平成16年9月29日受理）

はじめに

本調査研究は、現在の静岡県の民謡伝承実態を調査し、1980年代に採集されたテープ音源と比較研究するとともに保管整理すること、さらにその中から音楽的素材を発掘し、現代に適合した民謡として再創造すること、また教育現場での援用が容易な表演技術を開発し、その表演を行うことを目的としている。これは、地元民謡の伝承が衰退するなかで、過去の調査による貴重な録音資料の保管状態や、それらの一部が採譜・出版されているものの、実際にはほとんど活用されていない現状を改善する必要性を感じた筆者3人が、立ち上げたプロジェクトである。それぞれの専門性（大槻が作曲、柳沢がピアノ演奏、小西が音楽学）を生かすことで、過去に採取された民謡を教育現場や地元産業界に還元できるようなかたちに再創造し、音として表演することによってみんなに親しまれるものとし、地域活性化のための資源とすることを目論むものである。

その実現に向けて、平成16年5月から3ヶ年の計画を策定し、調査研究を開始した¹。平成16年度は、前半期は主として過去のテープ録音など音源資料整理と先行文献収集、先行事例調査および地元の民謡へのニーズ、民謡の伝承に関する聞き取り調査から着手し、後半期には地元音楽関係者などを交えた音楽表現検討会を行い、来年度に実施するワークショップ準備を行うことになっている。本編は、その前半期分にあたる9月まで4ヶ月間に行った調査概要を報告するものである。

この間、計画時から修正した事項としては、対象を「静岡県の民謡」から、茶節、茶もみ唄、茶摘み唄等の「茶歌」に焦点をあてることにしたことがあげられる。これは、茶業がかねてから県内の産業や文化と大きく関わってきたこと、また昨今では「世界お茶まつり」が開催されるなど、県内で「茶文化」創成活動が盛んになっていることを受けたものである。「茶文化」全体の中で「茶歌」を位置づけることにより、同一地域内における過去から現在に至る伝承の変化とその社会的要因について、とらえやすくなる。地元の産業界や文化振興と連携しつつ、「茶歌」の再創造と新しい奏演様式を開発することにより、地域の活性化に直結し、かつ学校における総合的学習の時間を使っての郷土学習などに還元できると考えたのである。

これらにもとづき、以下では調査実施項目について、1. 関連施設などの視察、2. 関連演奏会・祭典などの見学、3. 茶歌・茶文化に関する聞き取り調査、4. 学会等に分類した上で、調査目的に

よって整理し、それぞれの概要および成果に関する簡単なコメントを整理した。また、5. 検討会議の開催日と主な議事をまとめた。

1. 関連施設などの視察²

これまで視察した17ヶ所の関連施設には、1) 民謡のアーカイヴスに関する先行事例となるもの、2) 民謡の再創造に示唆を与えるもの、3) 現代的奏演に関する資料等を保有するもの、4) 茶歌、茶文化に関する情報収集ができるものが含まれる。これらを調査内容ごとに整理し、成果を簡単にまとめると次のようになる。

1. 1 民謡のアーカイヴスに関する調査

北海道立アイヌ民族文化研究センター（北海道札幌市 6月7日 大槻、柳沢、小西）

財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構（北海道札幌市 6月7日 大槻、柳沢、小西）

国立民族学博物館情報企画課（大阪府吹田市 7月6日 柳沢、小西）

ベルリン州立民族博物館（ドイツ・ベルリン 9月3日～5日 柳沢、小西）

これらの施設では、可能な場合には担当学芸員に事前連絡し、音源映像資料のアーカイヴスの現状とそのデータベース化に際しての技術的な問題、インターネットを含めた一般公開に関する留意点などについて示唆を得た。また、参考となる先行事例に関する資料の提供を受けた。とりわけ、情報提供者のプライバシーの保護が大きな問題であることがわかった。

1. 2 民謡の再創造に関する調査

白老ポロトコタンのアイヌ民族博物館（北海道白老市 6月8日 大槻、柳沢、小西）

古賀政男音楽博物館（東京都渋谷区 8月22日 大槻）

シベリウス博物館（フィンランド、トゥルク 9月1日 小西）

モーツァルト博物館（オーストリア、ザルツブルグ 8月27日 柳沢）

これらの施設では、古今東西で民謡がいかに音楽作品として再創造されたか（されているか）をその歴史的・文化的背景とともに把握した。とりわけアイヌ民族博物館では、若い文化の担い手が育成され、再創造されたアイヌの歌や舞踊に参加しており、今後の茶歌再創造と奏演による地域活性化の参考になった。また、民謡の再創造を行った作曲家たちにゆかりのある施設では、その後の保存を考える参考となった。

1. 3 現代的奏演に関する調査

ヤマハミュージック東京（東京都中央区 7月25日 柳沢）

江戸東京博物館（東京都墨田区 9月11日 大槻）

ベーゼンドルファー社（オーストリア、ウィーン 8月25日 柳沢）

フュッセン市立博物館（ドイツ、フュッセン 8月29日 柳沢）

ハイデルベルク書店（ドイツ、ハイデルベルク 9月2日 柳沢）

ライプチヒ楽器博物館内CDショップ（ドイツ、ライプチヒ 9月4日 柳沢）

これらの関連施設等では、古今東西の奏演に関する資料収集や奏演を支えてきた楽器（ピアノ、ヴァイオリン）について、製作現場でのポリシーやその技術の一端に触れたほか、関連資料収集を行った。これらを通じて、奏演の幅広い可能性を再確認するとともに、楽器の特性を活かした奏演技術を向上

させるための参考になった。

1. 4 茶文化・茶歌に関する調査

金谷町お茶の郷博物館（静岡県榛原郡金谷町 7月18日 大槻、柳沢、小西〔ツोक、森、青野・土井〕³⁾

国立国会図書館（東京都千代田区 7月28～29日 柳沢）

ツヴィンガー宮殿陶磁器博物館（ドイツ、ドレスデン 9月10日 柳沢）

お茶の郷博物館では、茶業中心の博物館における国際的な視点や展示について学び、また民謡のPC検索システムの事例を視察した。また、ツヴィンガー宮殿陶磁器博物館ではヨーロッパの茶器の歴史の変遷を掌握し、18世紀初頭から東洋（特に中国）の影響が強く見られることを確認した。これらから、「茶歌」の再創造や奏演が、地域を超えた文化交流の手がかりとなる可能性がわかった。

2. 関連演奏会・祭典などの見学⁴⁾

本調査研究の特徴ともいえるのは、紙やCDなどメディア化されたもののみならず、演奏会や祭典などでの公演も資料となることである。これまでに参加した10項目の大小公演を1)民謡の再創造、2)現代的奏演のいずれかに深く関わるかによって整理し、その成果を簡単にまとめると次のようになる。

2. 1 民謡の再創造関係

日本歌曲コンクール（東京都台東区 奏楽堂 5月23日 大槻）

オーストラリア・アボリジニのレクチャー付き演奏会（東京都港区 国際文化会館 5月26日 小西〔ツोक〕）

「日本歌曲コンクール」では、若手作曲家による日本語の詞を楽曲のなかで活かす試みとその奏演の現代性について研究した。また、レクチャー付き演奏会は、オーストラリアのレインフォレストレーションという観光施設で文化紹介をしている二人のアボリジニが招聘されて行われた。これにより、アボリジニが出身部族を超えて民族文化を再創造している実態と、その可能性について学んだ。

2. 2 現代的奏演関係

東京アカデミー合唱団「J.S. バッハ《マタイ受難曲》全曲演奏」（東京都渋谷区 オペラシティコンサートホール 7月11日 大槻）

石川ブロスによる箏、尺八による演奏（東京都新宿区 角筈区民ホール 7月26日 柳沢）

第9回太平洋芸術祭（パラオ、コロール 7月22日～7月31日 小西〔井谷〕⁵⁾

「修善寺物語」（東京都中央区 歌舞伎座 7月27日 柳沢）

青年歌舞伎公演「一の谷嫩軍記」（東京都中央区 国立劇場小劇場 8月23日 大槻）

文楽9月公演「恋女房染分手綱」（東京都中央区 国立劇場小劇場 9月12日 大槻）

ストリート・パフォーマンス（オーストリア、ウィーン 9月26日ほか 柳沢）

ベルリンフィル定期演奏会（ドイツ、ベルリン、9月9日 柳沢）

以上の古今東西の音楽や舞踊公演を通じて、過去の芸術遺産を現代化するための奏演技術や表現方法、舞台ごとに再創造するときの視点やエネルギー、場に応じての即興の展開方法などについて理解を深めた。これらによって、程度や手法の差はあるが普遍的ともいえる奏演の現代化の実態を確認す

るとともに、今後プロジェクトでの展開方法を考える参考になった。

3. 茶歌・茶文化に関する聞き取り調査⁶

民謡のうち「茶歌」に焦点を絞った後、「茶文化」という観点から県内の関連機関に所属する有識者や経験者等に聞き取り調査を行った。これらを時系列に沿って整理し、その成果を簡単にまとめると次のようになる。

齊藤善樹氏・風間ますみ氏（茶文化振興協会 静岡市北番町 6月1日 大槻、柳沢、小西）

藤田文敏氏（茶商工業協同組合 静岡市北番町 6月1日 大槻、柳沢、小西）

西村予史男氏（竹茗堂 静岡市呉服町 6月1日 大槻、柳沢、小西）

高崎譲寧氏（「茶歌」収集家 沼津市浮島 6月25日 大槻）

大草省吾氏（茶農家 島田市牧之原 7月18日 大槻、柳沢、小西）

山村美紗緒氏ほか（特別養護老人施設カリタすみわ 静岡市美和 8月3日 大槻〔森、青野、土井〕）

朝比奈とし江氏（民謡伝承者・故加瀬沢品吉氏3女 静岡市池田 8月7日〔森・土井・青野〕）

茶歌に関する調査を進める上で、過去から現在までの茶文化に関する資料が集積されていると思われる茶文化振興協会を最初に訪問した。そこで、関連資料の提供を受けるとともに、1979年に沼津市浮島地区で茶歌の音源資料収集とその五線譜化を行った高崎譲寧氏を紹介された。

その後訪問した高崎氏からは、大正年代にSPレコードとして収録された静岡県代表者11人による茶歌のカセットテープ2本の寄贈、およびその収録者のうち8名に関する情報提供を受けた。また、牧ノ原茶園開拓当時のドキュメンタリー番組（テレビ静岡）のビデオテープを拝借するとともに、その子孫・大草省吾氏（茶農家）を紹介された。また、大草氏からは当時の昔話と民謡（茶節）の失われた時期や背景について貴重な示唆を得るとともに、その経営する茶園を視察した。

また、藤田文敏氏、西村予史男氏ら茶商工業関係者からは、茶商工業に従事する立場での現代における茶歌のニーズや再創造、奏演の場に関する示唆を受けた。カリタすみわでは、デイケア部門で「音楽療法」に参加している山村美紗緒氏ほかから、民謡や唱歌に関する昔話やその現在における活用と享受の実態について情報収集した。以上により、地域社会や市民と連携したプロジェクトの推進の必要性が再認識できた。

4. 学会等⁷

以下での学会で、聴講および口頭発表とそれに対する質疑応答によって、民謡の再創造・奏演と現代社会における技術や民族問題との接点について、知見を広めた。

4.1 聴 講

「ユビキタス社会のサウンドスケープ」（日本サウンドスケープ協会シンポジウム 京都市上京区 キャンプスプラザ 5月30日 小西）

「アイヌ少数民族の学校教育における理解実践研究報告」（第2回日本音楽表現学会大会 北海道札幌市 北海道教育大学 6月5日 大槻、柳沢、小西）

「アメリカ合衆国東欧移民のアーカイヴス」ほか（日本国際文化学会第3回大会 神戸市灘区 神戸大学国際文化学部 7月3日～4日 小西）

4. 2 口頭発表

「音楽身体表現集団 The Pacific Eels の挑戦」(第2回日本音楽表現学会大会 北海道札幌市 北海道教育大学 6月6日 小西)

2003年8月にグランシップで開催された「こどもわくわくワークショップまつり」に参加した静岡大学学生からなる The Pacific Eels の活動内容などを紹介し、地域と大学を結ぶ現代的奏演の事例について報告をし、参加者から今後の発展にとって有意義なコメントをいただいた。

5. 会議録⁸

本調査研究を進めるにあたっては、綿密な準備や打ち合わせを行ってきた。日常的に顔を合わせる機会が多い講座内の教員3人が実施しているがゆえに、毎回1～2時間、長いときには3時間以上かけて十分な議論を行うことができ、またその結果を毎回議事録として蓄積している。以下では、参考までにこれまでの会議概要をまとめる。

- 第1回 4月20日(大槻、柳沢、小西)「実施計画について」
- 第2回 4月22日(大槻、小西)「支出計画について」
- 第3回 4月27日(大槻、柳沢、小西)「申請内容と支出計画について」
- 第4回 5月11日(大槻、柳沢、小西)「北海道調査および経費支出について」
- 第5回 5月20日(大槻、柳沢、小西、[ツোক、森、山田])
「学生協力者への調査概要説明および今後の調査計画について」
- 第6回 5月25日(大槻、柳沢、小西、[ツোক、森])
「調査用機材チェックと茶文化関係者への聞き取り調査について、既存資料の整理」
- 第7回 5月26日(大槻、柳沢、小西、[青野、土井])
「追加学生協力者への調査概要説明および今後の調査計画について」
- 第8回 6月30日(大槻、柳沢、小西、[ツোক、森、青野、土井、堀川⁹])
「高崎譲寧氏への聞き取り調査報告、および茶歌分析からみた過去の県内における東西交流について」
- 第9回 7月15日(大槻、柳沢、小西)「茶歌関係者への聞き取り調査分担について」
- 第10回 8月19日(大槻、柳沢、小西、[ツোক、森、青野、土井])
「茶歌関係者からの聞き取り調査報告」
- 第11回 9月17日(大槻、柳沢、小西、[ツোক、森、青野、土井])
「ヨーロッパ調査報告ほか」
- 第12回 9月21日(大槻、柳沢、小西)「報告書作成について」
- 第13回 9月22日(大槻、柳沢、小西)「報告書作成について」
- 第14回 9月23日(柳沢、小西)「報告書作成について」

今年度後半期は、以上のような先行調査や資料研究を続けるとともに、これらを参考に民謡の一例を再創造し、関係者などを交えた音楽表現検討会でその奏演を試みて、意見交換を行うことが大きな目標である。これまでの多種多様な調査研究成果を活かし、地域の人々との連携と対話によってその成果を地元や学校現場に還元することはもちろん、静岡から新しい民謡を世界に向けて発信する、という将来の大きな目標を睨みつつ研究を推進していきたい。

- 1 本研究をすすめるにあたっては、平成16年度日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）（2）「学校と地域社会を結ぶ民謡の発展的創造と現代的奏演に関する調査研究」、代表者・大槻寛および同基盤研究（C）（2）「静岡県の民謡再発掘とその現代的再創造に関する調査研究」代表者・柳沢信芳）の援助を受けたことをここに記し、感謝の意を表する。
- 2 調査対象施設名（所在地 調査日 担当者）の順に記した。
- 3 []内は補助学生。本調査に際しては、ツォク、森有世（以上、静岡大学教育学研究科1年）、青野友美、土井恵（以上、同教育学部2年）各氏の協力を得たことをここに記し、感謝の意を表する。
- 4 催事名（所在地 施設名 調査日 担当者）の順に記した。
- 5 本調査と連動し、日本学術振興会科学研究費補助金（基盤研究（B）（2）「ミクロネシア、小笠原、沖縄の民俗芸能交流とその受容、変化の動態に関する比較研究」（代表者・小西潤子）の調査研究をパラオにて行った。その際、井谷晋弥氏（静岡大学人文学研究科2年）の協力を得たことをここに記し、感謝の意を表する。
- 6 情報提供者氏名（所属等 調査地 調査日 担当者）の順に記した。
- 7 「テーマ、タイトルなど」（主催 所在地 施設名 調査日 担当者）の順に記した。
- 8 開催日（参加者名）「主要議題」の順に記した。
- 9 本会議には、茶歌分析に関する修士論文を執筆した堀川結紀（平成14年度静岡大学教育学研究科修了）氏の参加協力により、茶歌からみた過去の県内における東西交流について、示唆を受けたことをここに記し、感謝の意を表する。